

西

約30年前まで肉牛の飼育に使っていた元牛舎は、現在はミヨウカ

ニホンカモシカ 元牛舎が寝床に

山本さん宅

栽培で被覆材として使う落ち葉をため置きしている。

山本さんによると、カモシカは16日、元牛舎近くの水道の蛇口から流れ出した水を飲んだ後、中に入っていた。17日朝にいなくなっていたが、同日夕に元牛舎で確認。18日も19日も一度出た後に戻り、午後には落ち葉を寝床にくつろいだ様子だった。



元牛舎にいるニホンカモシカ(中央)と山本さん(左)ら

向かって突進して来る場合もあり注意が必要という。(関坂典生)

移住希望者らを支援

経験者をサポーター登録

【渋川】 渋川市は19日、移住希望者や転入したばかりの市民を支援する「市移住定住サポーター」制度を始めると発表した。移住経験者や住民をボランティアとしてサポーターに登録

録。住まいや仕事、子育てなどについて移住者の相談に乗り、地域に溶け込めるよう支援する。サポーターは、渋川での暮らしの情報や自治会活動などについて移住者に助言する。会

行政情報

8月2日から登録を始め、9月1日までに

「だんだん広場」命名碑お披露目

【渋川】 3月に渋川市の伊香保温泉街で行われた東京五輪聖火リレーの出発式が開かれた広場の愛称が「だんだん広場」になったことなどが記された石碑が19日、温泉街石段下の同広場に設置された。除幕式が同日開かれ、関係者の前でお披露目された。

式では、広場の愛称を考えた群馬大理工学部2年の永瀬響一さん(19)を表彰。高木勉市長から賞状と副賞の旅行券が手渡された。

永瀬さんは長野原町出身で、市の公募が行われた2020年1月当時、渋川青翠高生だった。石段を登る様子や聖火が広まるさまを示す「だんだん」や、暖かさを示す「暖

伊香保温泉街の石碑



暖)など。石碑の間隙が渡さ(火)を願

陸上競技場の愛称命名権 交渉権者に瑞穂建設

【渋川】 渋川市総合公園陸上競技場の愛称命名権(ネーミングライツ)の交渉権は19日、優先交渉

権者に瑞穂建設(同市)を選んだと発表された。実際の愛称やネーミングライツ料は市と同社の間で協議し、8月初旬には契約を締結する方針。10月1日から愛称を使い始める。市は本年度、新たな財源確保や地域経済の活性化を目的として、ネーミングライツの導入を決めた。(奥木秀幸)

吉岡町 柴崎

渋川の両市とエロナの感染が、クラスターの発生がなか策において一った。町内事業者世帯などの暮を注いでいる。規模事業所が地域応援商1万円分、保らに1人1万5千評価された。給付金の対象する10万円の貸しても、町民はえたと。柴崎